

令和4年度 筑波大学 2次試験前期日程 (数学問題)120分

- 社会学類は **1** **2** **3** から2題選択 (数II・B), 及び他教科との選択
- 国際総合・障害科学類は, 数II・B選択の場合は **1** **2** **3** から2題選択, 数III選択の場合は **4** **5** **6** から2題選択, 及び他教科との選択
- 教育・心理学類・生物資源・生物・地球・数学・物理・化学・応用理工・工学システム・情報科学・情報メディア創生学類・知識情報・図書館学類・社会工学類・医学・医療学類は **1** **2** **3** から2題選択, **4** **5** **6** から2題選択

1 t, p を実数とし, $t > 0$ とする. xy 平面において, 原点 O を中心とし点 $A(1, t)$ を通る円を C_1 とする. また, 点 A における C_1 の接線を ℓ とする. 直線 $x = p$ を軸とする2次関数のグラフ C_2 は, x 軸と接し, 点 A において直線 ℓ とも接するとする.

- (1) 直線 ℓ の方程式を t を用いて表せ.
- (2) p を t を用いて表せ.
- (3) C_2 と x 軸の接点を M とし, C_2 と y 軸の交点を N とする. t が正の実数全体を動くとき, 三角形 OMN の面積の最小値を求めよ.

2 整数 a_1, a_2, a_3, \dots を, さいころをくり返し投げることにより, 以下のように決めていく. まず, $a_1 = 1$ とする. そして, 正の整数 n に対し, a_{n+1} の値を, n 回目に出たさいころの目に応じて, 次の規則で定める.

(規則) n 回目に出た目が1, 2, 3, 4なら $a_{n+1} = a_n$ とし, 5, 6なら $a_{n+1} = -a_n$ とする.

たとえば, さいころを3回投げ, その出た目が順に5, 3, 6であったとすると, $a_1 = 1, a_2 = -1, a_3 = -1, a_4 = 1$ となる.

$a_n = 1$ となる確率を p_n とする. ただし, $p_1 = 1$ とし, さいころのどの目も, 出る確率は $\frac{1}{6}$ であるとする.

- (1) p_2, p_3 を求めよ.
- (2) p_{n+1} を p_n を用いて表せ.
- (3) $p_n \leq 0.5000005$ を満たす最小の正の整数 n を求めよ.
ただし, $0.47 < \log_{10} 3 < 0.48$ であることを用いてよい.

- 3** $0 < t < 1$ とする. 平行四辺形 ABCD について, 線分 AB, BC, CD, DA を $t : 1 - t$ に内分する点をそれぞれ A_1, B_1, C_1, D_1 とする. さらに, 点 A_2, B_2, C_2, D_2 および A_3, B_3, C_3, D_3 を次のように定める.

(条件) $k = 1, 2$ について, 点 $A_{k+1}, B_{k+1}, C_{k+1}, D_{k+1}$ は, それぞれ線分 $A_k B_k, B_k C_k, C_k D_k, D_k A_k$ を $t : 1 - t$ に内分する.

$\overrightarrow{AB} = \vec{a}, \overrightarrow{AD} = \vec{b}$ とするとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) $\overrightarrow{A_1 B_1} = p\vec{a} + q\vec{b}, \overrightarrow{A_1 D_1} = x\vec{a} + y\vec{b}$ を満たす実数 p, q, x, y を t を用いて表せ.
- (2) 四角形 $A_1 B_1 C_1 D_1$ は平行四辺形であることを示せ.
- (3) \overrightarrow{AD} と $\overrightarrow{A_3 B_3}$ が平行となるような t の値を求めよ.

- 4** $0 < a < 4$ とする. 曲線

$$C_1 : y = 4 \cos^2 x \quad \left(-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}\right),$$

$$C_2 : y = a - \tan^2 x \quad \left(-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}\right)$$

は, ちょうど 2 つの共有点をもつとする.

- (1) a の値を求めよ.
 - (2) C_1 と C_2 で囲まれた部分の面積を求めよ.
- 5** 曲線 $C : y = (x + 1)e^{-x}$ ($x > -1$) 上の点 P における法線と x 軸との交点を Q とする. 点 P の x 座標を t とし, 点 Q と点 $R(t, 0)$ との距離を $d(t)$ とする.
- (1) $d(t)$ を t を用いて表せ.
 - (2) $x \geq 0$ のとき $e^x \geq 1 + x + \frac{x^2}{2}$ であることを示せ.
 - (3) 点 P が曲線 C 上を動くとき, $d(t)$ の最大値を求めよ.

6 i は虚数単位とする. 次の条件 (I), (II) をどちらも満たす複素数 z 全体の集合を S とする.

(I) z の虚部は正である.

(II) 複素数平面上の点 $A(1)$, $B(1 - iz)$, $C(z^2)$ は一直線上にある.

このとき, 以下の問いに答えよ.

(1) 1 でない複素数 α について, α の虚部が正であることは, $\frac{1}{\alpha - 1}$ の虚部が負であるための必要十分条件であることを示せ.

(2) 集合 S を複素数平面上に図示せよ.

(3) $w = \frac{1}{z - 1}$ とする. z が S を動くとき, $\left| w + \frac{i}{\sqrt{2}} \right|$ の最小値を求めよ.

解答例

- 1 (1) 直線 OA の傾きが t であるから, ℓ は点 A(1, t) を通り傾き $-\frac{1}{t}$ の直線より

$$y - t = -\frac{1}{t}(x - 1) \quad \text{すなわち} \quad x + ty = 1 + t^2$$

- (2) $C_2: y = f(x)$ とおくと, 点 A の座標と ℓ の傾きから $f(1) = t, f'(1) = -\frac{1}{t}$

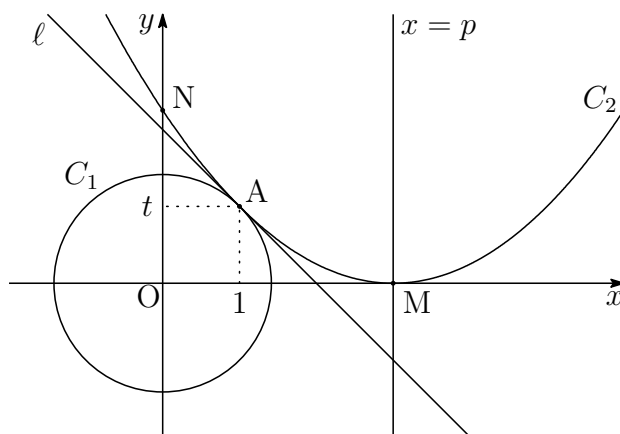
$$f(x) = a(x - 1)^2 - \frac{1}{t}(x - 1) + t$$

とおける (a は定数). C_2 は x 軸に接するから

$$\left(-\frac{1}{t}\right)^2 - 4at = 0 \quad \text{ゆえに} \quad a = \frac{1}{4t^3}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad f(x) &= \frac{1}{4t^3}(x - 1)^2 - \frac{1}{t}(x - 1) + t \\ &= \frac{1}{4t^3}\{(x - 1)^2 - 4t^2(x - 1) + 4t^4\} \\ &= \frac{1}{4t^3}\{(x - 1) - 2t^2\}^2 = \frac{1}{4t^3}(x - 2t^2 - 1)^2 \end{aligned}$$

よって $p = 2t^2 + 1$



- (3) 点 N の y 座標は $f(0) = \frac{1}{4t^3}(2t^2 + 1)^2$

$$\triangle OMN = \frac{1}{2}pf(0) = \frac{1}{2}(2t^2 + 1) \cdot \frac{1}{4t^3}(2t^2 + 1)^2 = \left(\frac{2t^2 + 1}{2t}\right)^3 = \left(t + \frac{1}{2t}\right)^3$$

$$t + \frac{1}{2t} \geq 2\sqrt{t \cdot \frac{1}{2t}} = \sqrt{2} \quad \text{より, 求める最小値は} \quad (\sqrt{2})^3 = 2\sqrt{2} \quad \blacksquare$$

2 (1) $p_1 = 1, p_2 = \frac{2}{3}p_1, p_3 = \frac{2}{3}p_2 + \frac{1}{3}(1 - p_2) = \frac{1}{3}p_2 + \frac{1}{3}$ より

$$p_2 = \frac{2}{3} \cdot 1 = \frac{2}{3}, \quad p_3 = \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3} + \frac{1}{3} = \frac{5}{9}$$

(2) 条件から、次の確率漸化式が成立する.

$$p_{n+1} = \frac{2}{3}p_n + \frac{1}{3}(1 - p_n) \quad \text{すなわち} \quad p_{n+1} = \frac{1}{3}p_n + \frac{1}{3}$$

(3) (2) の結果から $p_{n+1} - \frac{1}{2} = \frac{1}{3} \left(p_n - \frac{1}{2} \right)$

$\left\{ p_n - \frac{1}{2} \right\}$ は、初項 $p_1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$ 、公比 $\frac{1}{3}$ の等比数列であるから

$$p_n - \frac{1}{2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3} \right)^{n-1} \quad \text{ゆえに} \quad p_n = \frac{1}{2} \left(1 + \frac{1}{3^{n-1}} \right)$$

$$p_n \leq 0.5000005 = \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot 10^{-6} \text{ より}$$

$$\frac{1}{2} \left(1 + \frac{1}{3^{n-1}} \right) \leq \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot 10^{-6} \quad \text{ゆえに} \quad 3^{n-1} \geq 10^6$$

上の第2式の常用対数をとると

$$(n-1) \log_{10} 3 \geq 6 \quad \text{ゆえに} \quad n \geq 1 + \frac{6}{\log_{10} 3}$$

$0.47 < \log_{10} 3 < 0.48$ より、 $\frac{25}{12} < \frac{1}{\log_{10} 3} < \frac{100}{47}$ であるから

$$12 + \frac{1}{2} = \frac{25}{2} < \frac{6}{\log_{10} 3} < \frac{600}{47} = 12 + \frac{36}{47}$$

したがって $13 + \frac{1}{2} < 1 + \frac{6}{\log_{10} 3} < 13 + \frac{36}{47}$

よって、(*) を満たす最小の正の整数 n は **14** ■

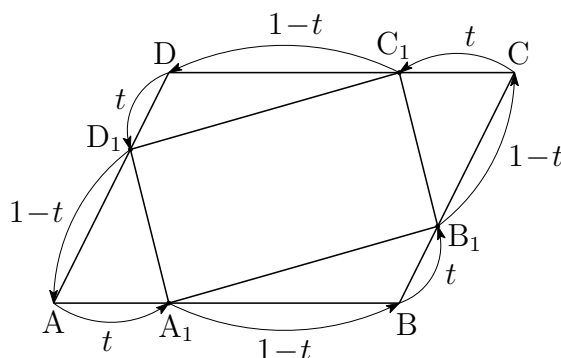
3 (1) $\overrightarrow{AA_1} = t\vec{a}$, $\overrightarrow{AB_1} = \vec{a} + t\vec{b}$, $\overrightarrow{AD_1} = (1-t)\vec{b}$ より

$$\overrightarrow{A_1B_1} = \overrightarrow{AB_1} - \overrightarrow{AA_1} = \vec{a} + t\vec{b} - t\vec{a} = (1-t)\vec{a} + t\vec{b},$$

$$\overrightarrow{A_1D_1} = \overrightarrow{AD_1} - \overrightarrow{AA_1} = (1-t)\vec{b} - t\vec{a} = -t\vec{a} + (1-t)\vec{b}$$

これらが $\overrightarrow{A_1B_1} = p\vec{a} + q\vec{b}$, $\overrightarrow{A_1D_1} = x\vec{a} + y\vec{b}$ を満たすとき, \vec{a} , \vec{b} が 1 次独立であるから

$$p = 1 - t, \quad q = t, \quad x = -t, \quad y = 1 - t$$



(2) $\overrightarrow{AC_1} = \overrightarrow{AD} + \overrightarrow{DC_1} = \vec{b} + (1-t)\vec{a}$ より

$$\begin{aligned} \overrightarrow{D_1C_1} &= \overrightarrow{AC_1} - \overrightarrow{AD_1} = \{\vec{b} + (1-t)\vec{a}\} - (1-t)\vec{b} \\ &= (1-t)\vec{a} + t\vec{b} = \overrightarrow{A_1B_1} \end{aligned}$$

よって, 四角形 $A_1B_1C_1D_1$ は平行四辺形である.

(3) (1) で示した $\overrightarrow{A_1B_1} = (1-t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AD}$, $\overrightarrow{A_1D_1} = -t\overrightarrow{AB} + (1-t)\overrightarrow{AD}$ より

$$\overrightarrow{A_2B_2} = (1-t)\overrightarrow{A_1B_1} + t\overrightarrow{A_1D_1}, \quad \overrightarrow{A_2D_2} = -t\overrightarrow{A_1B_1} + (1-t)\overrightarrow{A_1D_1}$$

したがって

$$\begin{aligned} \overrightarrow{A_3B_3} &= (1-t)\overrightarrow{A_2B_2} + t\overrightarrow{A_2D_2} \\ &= (1-t)\{(1-t)\overrightarrow{A_1B_1} + t\overrightarrow{A_1D_1}\} + t\{-t\overrightarrow{A_1B_1} + (1-t)\overrightarrow{A_1D_1}\} \\ &= (1-2t)\overrightarrow{A_1B_1} + 2t(1-t)\overrightarrow{A_1D_1} \\ &= (1-2t)\{(1-t)\vec{a} + t\vec{b}\} + 2t(1-t)\{-t\vec{a} + (1-t)\vec{b}\} \\ &= (1-t)(1-2t-2t^2)\vec{a} + t(3-6t+2t^2)\vec{b} \end{aligned}$$

これが \vec{b} と平行であるから $(1-t)(1-2t-2t^2) = 0$

t の値の範囲に注意して $t = \frac{\sqrt{3}-1}{2}$ ■

- 4 (1) C_1, C_2 は偶関数である. $x=0$ の点はこれらの共有点ではないから, $0 < x < \frac{\pi}{2}$ において, 共有点が1つとなる a の値を求めればよい.
 C_1, C_2 の方程式から y を消去すると

$$4 \cos^2 x = a - \tan^2 x \quad \text{ゆえに} \quad a = 4 \cos^2 x + \tan^2 x \quad (*)$$

$$f(x) = 4 \cos^2 x + \tan^2 x \quad \left(0 < x < \frac{\pi}{2}\right) \text{ とおくと}$$

$$f'(x) = -8 \cos x \sin x + 2 \tan x \cdot \frac{1}{\cos^2 x} = \frac{2 \sin x (1 - 4 \cos^4 x)}{\cos^3 x}$$

$f(x)$ の増減表は

x	(0)	\cdots	$\frac{\pi}{4}$	\cdots	$(\frac{\pi}{2})$
$f'(x)$		$-$	0	$+$	
$f(x)$	(4)	\searrow	3	\nearrow	(∞)

$$\lim_{x \rightarrow \frac{\pi}{2} - 0} f(x) = \infty$$

$0 < a < 4$ より, (*) がただ1つの実数解をもつときの a の値は **3**

別解 C_1, C_2 は偶関数である. $x=0$ の点はこれらの共有点ではないから, $0 < x < \frac{\pi}{2}$ において, 共有点が1つとなる a の値を求めればよい.

C_1, C_2 の方程式から y を消去すると $4 \cos^2 x = a - \tan^2 x$

$t = \cos^2 x$ とおくと ($0 < t < 1$), $\tan^2 x = \frac{1 - \cos^2 x}{\cos^2 x} = \frac{1 - t}{t}$ より

$$4t = a - \frac{1 - t}{t} \quad \text{整理すると} \quad 4t^2 - (a + 1)t + 1 = 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

この2次方程式が重解をもつから

$$(a + 1)^2 - 4 \cdot 4 \cdot 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (a + 5)(a - 3) = 0$$

$0 < a < 4$ より $a = 3$ このとき, ①は重解 $\frac{1}{2}$ をもち, 条件を満たす.

よって **$a = 3$**

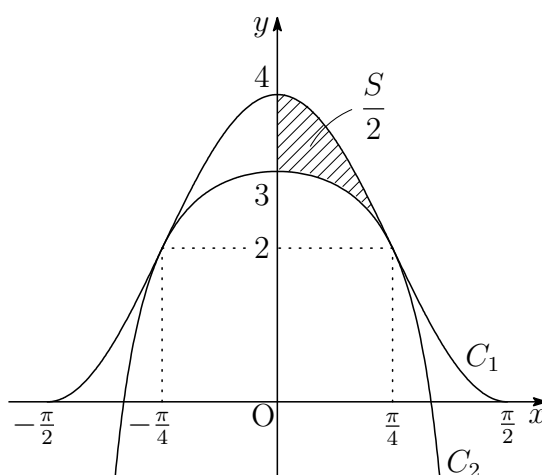
(2) $f(x) \geq 3$ より, $C_1 : y = 4 \cos^2 x$, $C_2 : y = 3 - \tan^2 x$ について

$$4 \cos^2 x - (3 - \tan^2 x) = f(x) - 3 \geq 0$$

したがって, 求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} \frac{S}{2} &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \{f(x) - 3\} dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} (4 \cos^2 x + \tan^2 x - 3) dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(2 \cos 2x + \frac{1}{\cos^2 x} - 2 \right) dx \\ &= \left[\sin 2x + \tan x - 2x \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = 2 - \frac{\pi}{2} \end{aligned}$$

よって $S = 4 - \pi$

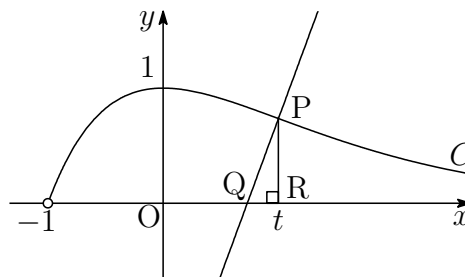


- 5 (1) $f(x) = (x+1)e^{-x}$ とおくと

$$f'(x) = -xe^{-x}$$

$C : y = f(x)$ 上の点 $P(t, f(t))$ における法線の方程式は

$$x - t + f'(t)\{y - f(t)\} = 0$$



これに $y = 0$ を代入すると $x - t - f'(t)f(t) = 0$

$$x - t = f'(t)f(t) \quad \text{ゆえに} \quad QR = |x - t| = |f'(t)f(t)|$$

$t > -1$ に注意して $QR = |te^{-t} \cdot (t+1)e^{-t}| = |t|(t+1)e^{-2t}$

補足 C 上の点 $P(t, f(t))$ における法線は、ベクトル $(1, f'(t))$ と垂直であるから、法線上の任意の点 (x, y) について

$$(x - t, y - f(t)) \perp (1, f'(t)) \quad \text{ゆえに} \quad x - t + f'(t)\{y - f(t)\} = 0$$

本題では、 $t = 0$ のとき、 $f'(t) = 0$ であるから、一般的 (generic) に用いる公式 $y - f(t) = -\frac{1}{f'(t)}(x - t)$ では $t \neq 0$ として PQ を求め、 $t = 0$ の場合は、法線 PQ は y 軸と一致するから $QR = 0$ となる。これらをまとめて

$$QR = |t|(t+1)e^{-2t}$$

と表記できることを説明する必要がある。やはり一般 (general) 公式

$$x - t + f'(t)\{y - f(t)\} = 0$$

を用いた方がよい。(薬でもそうであるが)、ジェネリックでも大半の場合に有効であるが、ごく一部に適用できない場合がある。

- (2) $g(x) = e^x - 1 - x - \frac{x^2}{2}$ とおくと

$$g'(x) = e^x - 1 - x, \quad g''(x) = e^x - 1 \geq e^0 - 1 = 0$$

$g'(0) = 0$, $g''(x) \geq 0$ ($x \geq 0$) であるから $g'(x) \geq 0$ ($x \geq 0$)

$g(0) = 0$, $g'(x) \geq 0$ ($x \geq 0$) であるから $g(x) \geq 0$ ($x \geq 0$)

よって $x \geq 0$ のとき $e^x \geq 1 + x + \frac{x^2}{2}$

別解 $x \geq 0$ のとき¹

$$\begin{aligned}
 e^x &= 1 + \int_0^x e^t dt = 1 + \int_0^x (t-x)' e^t dt \\
 &= 1 + \left[(t-x)e^t \right]_0^x - \int_0^x (t-x)e^t dt \\
 &= 1 + x - \int_0^x \left\{ \frac{1}{2}(t-x)^2 \right\}' e^t dt \\
 &= 1 + x - \left[\frac{1}{2}(t-x)^2 e^t \right]_0^x + \int_0^x \frac{1}{2}(t-x)^2 e^t dt \\
 &= 1 + x + \frac{x^2}{2} + \int_0^x \frac{1}{2}(t-x)^2 e^t dt \geq 1 + x + \frac{x^2}{2}
 \end{aligned}$$

(3) $h(t) = t(t+1)e^{-2t}$ ($t > -1$) とおくと $h'(t) = (1-2t^2)e^{-2t}$

t	(-1)	\cdots	$-\frac{1}{\sqrt{2}}$	\cdots	$\frac{1}{\sqrt{2}}$	\cdots
$h'(t)$		$-$	0	$+$	0	$-$
$h(t)$	(0)	\searrow	極小	\nearrow	極大	\searrow

$$h\left(-\frac{1}{\sqrt{2}}\right) = -\frac{\sqrt{2}-1}{2}e^{\sqrt{2}},$$

$$\frac{1}{\sqrt{2}} < t \text{ のとき } 0 < h(t) < h\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right) = \frac{\sqrt{2}+1}{2}e^{-\sqrt{2}}$$

$d(t) = |h(t)|$ であるから、 $d(t)$ の最大値を M とすると

$$M = \max\left(\frac{\sqrt{2}-1}{2}e^{\sqrt{2}}, \frac{\sqrt{2}+1}{2}e^{-\sqrt{2}}\right)$$

$$\text{このとき } \frac{\frac{\sqrt{2}-1}{2}e^{\sqrt{2}}}{\frac{\sqrt{2}+1}{2}e^{-\sqrt{2}}} = (\sqrt{2}-1)^2 e^{2\sqrt{2}} = \left\{(\sqrt{2}-1)e^{\sqrt{2}}\right\}^2$$

(2) の結果に $x = \sqrt{2}$ を代入すると

$$e^{\sqrt{2}} \geq 1 + \sqrt{2} + \frac{(\sqrt{2})^2}{2} = \sqrt{2}(\sqrt{2}+1)$$

$$\text{上の 2 式から } \frac{\frac{\sqrt{2}-1}{2}e^{\sqrt{2}}}{\frac{\sqrt{2}+1}{2}e^{-\sqrt{2}}} \geq \{(\sqrt{2}-1) \cdot \sqrt{2}(\sqrt{2}+1)\}^2 = 2 > 1$$

$$\text{よって、求める最大値は } \frac{\sqrt{2}-1}{2}e^{\sqrt{2}} \quad \blacksquare$$

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/N/THdai/THdai_ri.2021.pdf の [6] を参照。

$$\boxed{6} \quad (1) \quad \frac{1}{\alpha-1} = \frac{\bar{\alpha}-1}{(\alpha-1)(\bar{\alpha}-1)} = \frac{\bar{\alpha}-1}{|\alpha-1|^2} \text{ より}$$

$$\operatorname{Im}\left(\frac{1}{\alpha-1}\right) = \operatorname{Im}\left(\frac{\bar{\alpha}-1}{|\alpha-1|^2}\right) = \operatorname{Im}\left(\frac{\bar{\alpha}}{|\alpha-1|^2}\right) = -\frac{\operatorname{Im}(\alpha)}{|\alpha-1|^2}$$

$$\text{よって } \operatorname{Im}(\alpha) > 0 \iff \operatorname{Im}\left(\frac{1}{\alpha-1}\right) < 0$$

(2) $\operatorname{Im}(z) > 0$ より, $z \neq 0$ に注意して

$$\frac{z^2-1}{(1-iz)-1} = \frac{z^2-1}{-iz}$$

は実数であるから

$$\frac{z^2-1}{-iz} - \overline{\left(\frac{z^2-1}{-iz}\right)} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{z^2-1}{-iz} - \frac{\bar{z}^2-1}{i\bar{z}} = 0$$

$$\text{上の第2式から} \quad \bar{z}(z^2-1) + z(\bar{z}^2-1) = 0$$

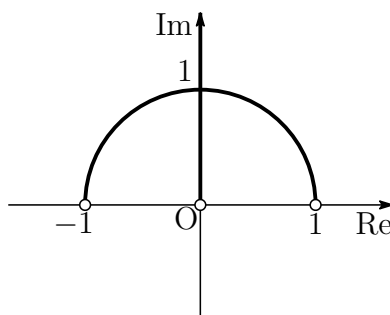
$$(z+\bar{z})(z\bar{z}-1) = 0$$

$$2\operatorname{Re}(z)(|z|^2-1) = 0$$

よって, S の満たす条件は

$$\operatorname{Re}(z) = 0 \quad \text{または} \quad |z| = 1 \quad (\operatorname{Im}(z) > 0)$$

したがって, S は, 下の図の太線部分で, \circ は含まない.



(3) $w = \frac{1}{z-1}$ について, (1) の結論から, $\text{Im}(z) > 0$ より $\text{Im}(w) < 0$

$d = \left| w + \frac{i}{\sqrt{2}} \right|$ とおくと, d は点 $-\frac{i}{\sqrt{2}}$ と点 w の 2 点間の距離を表す.

$$w = \frac{1}{z-1} \text{ より } z = \frac{w+1}{w}$$

(i) $\text{Re}(z) = 0$ のとき, $z + \bar{z} = 0$ より $\frac{w+1}{w} + \frac{\bar{w}+1}{\bar{w}} = 0$

$$w\bar{w} + \frac{1}{2}(w + \bar{w}) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \left| w + \frac{1}{2} \right|^2 = \frac{1}{4}$$

w は中心 $-\frac{1}{2}$, 半径 $\frac{1}{2}$ の円の $\text{Im}(w) < 0$ の部分を表す.

d を最小にする点を w_1 とすると

$$\left| w_1 + \frac{i}{\sqrt{2}} \right| = \left| -\frac{1}{2} + \frac{i}{\sqrt{2}} \right| - \frac{1}{2} = \frac{\sqrt{3}-1}{2}$$

(ii) $|z| = 1$ のとき, $\left| \frac{w+1}{w} \right| = 1$ より $|w+1| = |w|$

w は 2 点 $-1, 0$ の垂直二等分線の $\text{Im}(w) < 0$ の部分を表す.

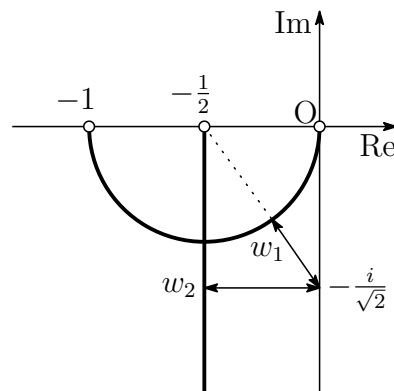
d を最小にする点を w_2 とすると $\left| w_2 + \frac{i}{\sqrt{2}} \right| = \frac{1}{2}$

(i), (ii) の結果から

$$\left| w_2 + \frac{i}{\sqrt{2}} \right| - \left| w_1 + \frac{i}{\sqrt{2}} \right| = \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}-1}{2} = \frac{2-\sqrt{3}}{2} > 0$$

$\left| w_1 + \frac{i}{\sqrt{2}} \right| < \left| w_2 + \frac{i}{\sqrt{2}} \right|$ であるから, 求める最小値は

$$\left| w_1 + \frac{i}{\sqrt{2}} \right| = \frac{\sqrt{3}-1}{2}$$



補足 (2) で得られた結果

$$\operatorname{Re}(z) = 0 \quad \text{または} \quad |z| = 1 \quad (\operatorname{Im}(z) > 0)$$

は次のように表記することもできる².

$$z = i \tan \theta \quad \left(0 < \theta < \frac{\pi}{2}\right) \quad \text{または} \quad z = \cos \varphi + i \sin \varphi \quad (0 < \varphi < \pi)$$

(i) $z = i \tan \theta \quad \left(0 < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$ のとき

$$\begin{aligned} w &= \frac{1}{z-1} = \frac{1}{i \tan \theta - 1} = -\frac{\cos \theta}{\cos \theta - i \sin \theta} \\ &= -\cos \theta (\cos \theta + i \sin \theta) = -\cos^2 \theta - i \sin \theta \cos \theta \\ &= -\frac{1}{2} - \frac{1}{2}(\cos 2\theta + i \sin 2\theta) \\ &= -\frac{1}{2} + \frac{1}{2}\{\cos(2\theta + \pi) + i \sin(2\theta + \pi)\} \end{aligned}$$

w は中心 $-\frac{1}{2}$, 半径 $\frac{1}{2}$ の円周上の $\pi < \arg\left(w + \frac{1}{2}\right) < 2\pi$ を満たす点.

(ii) $z = \cos \varphi + i \sin \varphi \quad (0 < \varphi < \pi)$ のとき

$$\begin{aligned} w &= \frac{1}{z-1} = \frac{1}{\cos \varphi + i \sin \varphi - 1} \\ &= \frac{\cos \varphi - 1 - i \sin \varphi}{(\cos \varphi - 1 + i \sin \varphi)(\cos \varphi - 1 - i \sin \varphi)} \\ &= \frac{\cos \varphi - 1 - i \sin \varphi}{2(1 - \cos \varphi)} = -\frac{1}{2} - \frac{i \sin \varphi}{2(1 - \cos \varphi)} \\ &= -\frac{1}{2} - \frac{2i \sin \frac{\varphi}{2} \cos \frac{\varphi}{2}}{4 \sin^2 \frac{\varphi}{2}} = -\frac{1}{2} - \frac{i}{2 \tan \frac{\varphi}{2}} = -\frac{1}{2} - \frac{i}{2} \tan \frac{\pi - \varphi}{2} \end{aligned}$$

w は $\operatorname{Re}(w) = -\frac{1}{2}$ の直線上の $\operatorname{Im}(w) < 0$ を満たす点. ■

²http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2019.pdf (p.10 の解説を参照)